

令和2年度 事業報告書
令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

認定特定非営利活動法人
青少年の自立を支える会シオン

1. 事業の成果

【総括】

はじめに、児童福祉施設の離職率は高く、3年以内に多くの職員が離職する。その離職率を「49%」とするデータもある。理由は、長時間労働などの厳しい労働環境、低収入、入居児童との軋轢、モンスターペアレントなどの負担、社内の人間関係などである。当法人が運営する児童福祉施設では、長時間労働はほぼなく、給料水準も他児童福祉施設よりも高いと考える。しかしながら、一定数の離職者は存在している。児童福祉施設の当該問題を受け、当法人は、職員が気持ちよく働けるよう、環境整備などに力を入れ事業を展開した。そして、令和2年度事業実施の方針を概ね達成することができ、優秀な職員が定着するよう、職員がバーンアウトして離職しないよう努めることができたのではないかと考える。続いて、ハード面でも大きく改善を行った年でもあった。施設の増築や改築、ストリーマー付きのエアコン設置、PCやタブレットの購入などを実施した。当該改善事業により、すべての入所児童の部屋が個室になり、コロナや熱中症対策が徹底された。また職員各々がPCやタブレットを使用できるようになり、事務作業の効率化を進めることができた。上述の改善は、入居子どもたちへのよいサービス提供の一助となったと同時に、職員の離職率低下に大きく貢献するだろうと考える。

次に、昨年度は、9人の子ども達が通信高校の単位を習得し、6人が進級した。また今春に専門学校を卒業したOBにおいては、ホテルオークラ本店で調理員として入社するなど、実績を残すことができた。令和2年3月1日、阿見町に開所した多機能型事業所「アミアス」は、1人の利用者から始まり、現在は3人の登録者、2人の利用者となっている。まだ広報せず、自立援助ホーム「みらい」の入居者のみを対象としているが、近い将来、近隣市町村のハンデを持つ方々にも利用してもらいたいと計画している。

昨年度の、自立援助ホーム「みらい」利用者は延べ2,771人、「えがおの家」利用者は延べ1,519人、「あい」の利用者は延べ1919人であった。1日の平均利用人数は「みらい」が7.6人、「えがおの家」が4.2人、「あい」が5.3人であった。

【令和2年度事業実施の方針】

区分	内容
優秀な人材の確保	1. 職員の定着率は、各施設間で大きな差異がみられた。 2. 人材派遣会社などを利用し新たな人財を確保した。
技術の研鑽と継承	入居児童との軋轢を減らすため、下記の通り技術の研鑽を行った。 1. 月に1度、動機づけ面接法の研修を行い、技術を学んだ。 2. 行政担当者との協議に担当職員も同席させ、行政の支援方法などを学んだ。 3. 月に一度インシデントプロセス法による事例検討を実践した。
チームワークの強化	チーム力、仲間意識を高めるため、目標管理シートを作成。令和3年度の導入を決定。効果的なフィードバックを行う一助となると期待している。
関係機関との連携強化	1. 関係機関の職員来所持には、必ず児童の担当職員等を同席させた。それにより、ホーム職員の見える化を達成。 2. 里親へのアプローチは次期早々と判断し実施せず。
多機能型事業所の体制強化	1. 指導員2名を雇用した。 2. 県立医療大学学食事業の設立準備を行い令和3年4月1日開所する。
各種規定・契約書の改良及び作成	1. 給与規定の改善、非常勤職員就業規則の作成、令和3年度より導入を決定。 2. 多機能型事業所「アミアス」は地域2団体及び、当法人ホームと事業委託契約書を交わした。

令和2年度 事業報告書
令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

自立援助ホーム みらい

1. 事業の成果

はじめに、令和2年4月に個性の強い子どもたちが入所してきた。トラブルが続いたが、経験のある優秀な職員たちが一枚岩となり対応を続けた。結果、トラブルの生起率はみるみるうちに低くなり、3か月目に入ると、大きなトラブルはほぼ発生しなくなった。長年続けてきた研修と事例検討の賜物であり、職員の大きな自信になったと考える。また入居者である子どもたちも、守られ感と安心感を体感したことと思う。

次に、季節になると不安定になる入居者がいる。想定したとおり年末に情緒が大きく崩れ、自傷行為と自殺企図があった。入退院を繰り返したが、主治医と連携をとりながら、しっかりと受けとめることができた。退院後は、訪問介護や近隣の多機能型事業所などの社会資源を活用しながら、サポートを続けている。みらいへ入所する前にはできなかった、高校の単位取得と進級に、私たち職員は目を細めている。

最後に、コロナ過の影響で、大人数による夏旅行や冬旅行、月間行事が無くなった。子どもたちの、非日常における教育の機会が奪われ、ストレス発散の機会や、新たな趣味を獲得する機会も激減した。どうなってしまうのか不安があった。一方、職員も研修や会合などの外出機会が激減した。また、ZOOMなどの新たなオンライン会議ツールの使用により、職員がホームにいる時間が増加し、子どもたちと関わる時間の増加につながった。子ども一人当たりの増加時間は10分ほどかもしれない。しかし、質の高いコミュニケーションが10分も増加したとしたら、子どもと職員との絆は強くなり、子どもの情緒は安定する。そして、心的にゆとりを持った職員はより質の高いコミュニケーションをとるようになったのではないかと推測する。トラブルは例年通り発生したが、発生後の取り組みと、その結果が今までよりも確実に良かったと思われる一年であった。これも一つに職員のおかげと感謝している。

【施策】

区分	内容
会員獲得	1. 継続会員の精査を行った結果、継続会員に会費納入のお願いを出していなかったことが判明した。 2. 新規会員は、更生保護女性会会員、職員及び職員の親類知人に偏っているなど、課題があった。
優秀な人財の確保	1. 担当制をとり、入居者に対する権限を与えるなど、職員のやる気を育む取り組みを行った。 2. 昨年度は離職者なし、就労している職員を支えることができたと考える。 3. 新たな人材、常勤2名を雇用した。心理士を3名有期雇用した。
総務業務の確立	1. 各ホーム長のホーム運営に関わる業務と、管理監督業務を振り分けた。また次年度からの MBO シート活用を決定した。 2. 各ホームが処理する経理と総務が一元化すべきものの振り分けをおこなった。
チームワークの強化	1. 施設内研修時の理念復唱は実践せず。 2. 給与規定は説明会を行ったが、他各種規則に関する研修などは実施せず。 3. 他ホーム職員2名を誘い、女子会を行う。 4. 親睦会は実施済み。

令和2年度 事業報告書
令和2年4月1日から令和3年 3月31日まで

自立援助ホーム えがおの家

1. 事業の成果

はじめに、昨年 8 月に発生しました、退居児童の事故についてご心配とご迷惑をおかけいたしました。相手側と示談が成立し、当該事案は無事に完了いたしました。令和 2 年度の月平均利用者数は 4.25 人と基準値をクリアすることができた。これは児童相談所及び児童養護施設との関係性構築がなされた結果である。入居児童においても、高校に通う 4 名のうち、2 名が無事に進級を果たした。残りの 2 名のうち 1 名は退居と同時に退学を選択したが、新たな環境で頑張っている。もう 1 名は両親の希望により退学、現在は退居し、家族のもとで暮らしている。今年度は入居者の新規獲得と同時に職員の育成に重きを置いたが、現状、まだまだ実力不足が見受けられる。

【施策】

区分	適用
会員獲得	新規及び継続会員を 13 名獲得した。
定員1名の増加	福祉司の来所時には、職員を複数つけ協議にあたる。ホームで働く職員の人柄や考え等を知ってもらい、職員に対する理解を深めてもらうことで連携の強化を図った。 市町村対応の窓口担当者を選定した。 令和 2 年度、平均の利用者数は 4.25 人であった。 よって、 令和 3 年度定員の 1 名増加を達成した。
技術の研鑽と継承	月 1 回、動機づけ面接を学び、令和 3 年度からホーム内で同プログラムの基礎を実践できるようになった。 インシデントプロセス法による事例検討を月に 1 度合同で行う。もって、問題解決対策から職員の質向上を図った。
チームワークの強化	ホームの子ども達だけでなく、職員も幸せになるような、明るいビジョンを構築し職員一同で共有する。そして、そのビジョンを達成するために、具体的な目標設定を行う。⇒達成できず。 ホーム内親睦会 2 回、女子会を 1 回開催した。
施設環境整備	補助金により、完全個室化、トイレ及び浴室の男女専用化を行った。 PC やタブレットを購入し、事務作業を全般とした、作業の効率化を図った。デスクトップパソコン1台、タブレット PC1台

令和2年度 事業報告書
令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

自立援助ホーム あい

1. 事業の成果

あいは、平成30年4月に開所し、此度4度目の春を無事に迎えることができました。日頃よりご支援いただいております皆様方には心より御礼申し上げます。

令和2年度は、高校を卒業し介護施設に入職した子が1名退居いたしました。市内で1人暮らしを始めたこともあり、時折ホームを訪れ、連絡を取り合いながらアフターケアとして関係が続いております。不安定になり離職の危険性が高まった時期もございましたが、本人、就労先と連携し、何とか現在も頑張つて仕事を続けられています。また、1名の子が高校を卒業することができました。

入居率は、5.3人で6人定員の暫定基準値4.01人を大きく上回りました。子ども達の就業率も100%と非常に高く、就学率は84%ですが、既卒者を含んだ数値のため、それらを除けば全ての子が働きながら学校に通っていることとなります。しかし、就学状況に関しては思うようにいかない面もあり、4名中2名が令和2年度の履修単位を全て落としてしまいました。入居者の6割が発達障害等の診断、疑いがあり、抱える背景や自立援助ホームの高校卒業率を鑑みれば、想定範囲内ではあるかと存じますが、少しでも子ども達のやる気を引き出せるよう、引き続き職員一同精進いたします。

職員に関しましては、2名の非常勤職員が退職し(内1名は期間満了)、定職率は66%でした。常勤職員が心身に支障をきたし、2週間程休養を取る等もございましたが、その後、チームワーク形成に励み、常勤職員のみで定職率でいえば100%となり、安定させることができたのではないかと考えております。

設備の面では、民間助成金や新型コロナウイルス関係の事業(公費)により、各居室にエアコンを設置することができ、居室の増設と女子用のシャワー室を設置することができました。これまで各居室にエアコンが設置されていなかったため、次年度以降光熱費が大幅に増えることが想定されますが、東北地方でありながら暖房器具が充実していないことは、子ども達にとって適切な関係とはいえ、盆地である郡山は東北地域でありながら夏は非常に暑いため、熱中症が心配であることから、光熱費用の増額は致し方ないことと考えております。

【施策】

区分	摘要
会員獲得	継続会員2名 新規会員1名
優秀な人材の確保	職員のストレス度チェックを毎月行い、メンタルヘルス向上に努め、職員定着率アップを図った。 非常勤職員を2名増員。
技術の研鑽と継承	児童相談所との面談、見学等に職員を同席させ、関係機関との連携等について学んだ。 オブザーバーとして心理士が出席する事例検討を概ね毎月開催した。
チームワークの強化	職員同士が互いに認め合い、より良い関係を築くことで、質の高いサービスを提供できるよう、多様性を受容する施設内研修を実施した。 職員による親睦会は実施せず。
関係機関との連携強化	市町村対応の窓口担当責任者を選定した。

令和2年度 活動計算書

令和2年4月1日至令和3年3月31日

認定NPO法人 青少年の自立を支える会シオン

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	割合
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	90,000	50,000	56%
賛助会員受取会費	390,000	208,000	53%
受取会費計	480,000	258,000	54%
2 受取寄付金			
受取寄付金	1,670,000	3,081,125	184%
受取寄付金計	1,670,000	3,081,125	184%
3 受取助成金等			
受取助成金	0	3,750,000	0%
受取補助金	1,600,000	11,242,400	703%
受取助成金等計	1,600,000	14,992,400	937%
4 事業収益			
子どもを対象とした支援事業収益	61,600,000	90,677,328	147%
低学歴等に対する支援事業	3,000,000	0	0%
社会参加を目的とした支援事業	860,000	0	0%
前項に掲げる事業に関連する別品の販売・斡旋	0	2,108,117	0%
事業収益計	65,460,000	92,785,445	142%
5 その他の収益			
雑収益	300,000	439,966	141%
その他の収益計	300,000	439,966	147%
経常収益計	69,510,000	111,556,936	160%
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
常勤・非常勤職員給与	35,910,000	36,963,526	103%
賞与	4,990,000	3,883,722	78%
法定福利費	4,700,000	5,760,738	123%
福利厚生費	30,000	33,557	112%
退職給付費用	530,000	535,000	101%
人件費引当金繰入費	300,000	7,600,000	0%
賞与引当金繰入費	0	3,729,571	0%
人件費計	46,460,000	58,506,114	126%

科 目	予算額	決算額	割合
(2) その他の経費			
給食費	2,500,000	2,904,677	116%
水道光熱費	1,810,000	1,785,820	99%
修繕費	60,000	5,009	8%
特別育成費	3,000,000	7,883,243	263%
保健衛生費	100,000	125,615	126%
旅費交通費	60,000	5,783	10%
娯楽教養費	230,000	63,394	28%
日用品費	220,000	233,981	106%
車輛経費	90,000	0	0%
食材費	90,000	16,027	18%
環境改善事業費	0	10,668,860	
支払工賃	0	360,000	
その他の経費計	8,160,000	24,052,409	295%
事業費計	54,620,000	82,558,523	151%
2 管 理 費			
(1) その他の経費			
広報費	470,000	84,200	18%
会議費	240,000	78,362	33%
旅費交通費	780,000	310,801	40%
通信運搬費	630,000	884,930	140%
車輛経費	620,000	815,127	131%
修繕費	700,000	5,783,117	826%
水道光熱費	550,000	353,276	64%
地代家賃	6,040,000	6,120,000	101%
保険料	420,000	789,690	188%
租税公課	170,000	483,800	285%
減価償却費	2,210,000	4,946,328	224%
教育研修費	500,000	121,350	24%
消耗備品費	890,000	3,157,316	355%
保健衛生費	60,000	300	1%
施設整備引当金繰入	0	1,120,000	
雑 費	560,000	451,579	81%
支払利息	50,000	25,567	71%
雑損失	0	51,622	
固定資産除却損	0	10	
その他の経費計	14,890,000	25,577,375	172%
管 理 費 計	14,890,000	25,577,375	172%
経常費用計	69,510,000	108,135,898	156%
当期経常増減額	0	3,421,038	0%
当期正味財産増減額	0	3,421,038	0%
前期繰越正味財産額	64,829,059	62,383,709	96%
次期繰越正味財産額	64,829,059	65,804,747	102%

貸借対照表

令和3年3月31日現在

認定NPO法人 青少年の自立を支える会シオン

(単位：円)

科 目	金	額
I 資 産 の 部		
1 流 動 資 産		
現金・預金	18,137,471	
未収入金	40,894,354	
前払費用	565,000	
流動資産合計		59,596,825
2 固 定 資 産		
1 有 形 固 定 資 産		
建 物	28,484,928	
構 築 物	3,412,580	
車両運搬具	4	
什器備品	129,501	
有形固定資産計		32,027,013
固定資産資産合計		32,027,013
資 産 合 計		91,623,838
II 負債の部		
1 流 動 負 債		
短期借入金	3,400,000	
未 払 金	3,219,000	
前 受 金	90,000	
預 り 金	416,520	
人件費積立引当金	12,420,000	
施設整備引当金	1,120,000	
賞与引当金	3,729,571	
流動負債合計		24,395,091
2 固 定 負 債		
長期借入金	1,424,000	
固定負債合計		1,424,000
負 債 合 計		25,819,091

科	目	金	額
Ⅲ	正味財産の部		
	正味財産の額		
	前期繰越正味財産額	62,383,709	
	当期正味財産増加額	3,421,038	
	正味財産合計		65,804,747
	負債及び正味財産合計		91,623,838

財産目録

令和3年3月31日現在

認定NPO法人 青少年の自立を支える会シオン

(単位：円)

科	目	摘 要	金	額
資産の部				
流動資産	現金・預金	現金 期末有高	586,613	
		普通預金 常陽銀行No1175284	3,250,564	
		普通預金 常陽銀行No1260026	201,000	
		普通預金 常陽銀行No1295509	1,629,796	
		定期預金 ゆうちょ銀行令和5年満期	4,000,000	
		郵便貯金 ゆうちょ銀行No44593341	708,300	
		郵便貯金 ゆうちょ銀行No56891	247,530	
		郵便貯金 ゆうちょ銀行No18048281	2,447,359	
		郵便貯金 ゆうちょ銀行No41855381	1,415,006	
		郵便貯金 ゆうちょ銀行あい	3,357,603	
		郵便貯金 ゆうちょ487660	293,700	
		現金・預金計		18,137,471
	未収入金	茨城県保健福祉部	28,832,878	
		福島県保健福祉部	9,031,359	
		茨城県障害福祉課	1,422,117	
		東京都・阿見町	1,608,000	
		未収入金計		40,894,354
	前払費用	水野洋家賃4月分	565,000	565,000
固定資産		流動資産計		59,596,825
	建 物	NPO法人建物	28,484,928	
	構築物	ソーラーシステム他	3,412,580	
	車両運搬具	ホンダステップワゴン他	4	
	什器備品	防犯対策工事	129,501	
		有形固定資産計		32,027,013
		固定資産計		32,027,013
		資 産 合 計		91,623,838

科 目		摘 要	金 額	
負債の部				
流動負債	短期借入金 未払金 前受金 預り金 人件費引当金 賞与引当金 施設整備引当金	水野 洋	3,400,000	3,400,000
		ミライエ(株)	2,869,000	
		ケーズデンキ	350,000	3,219,000
		(株)エーエルイー会費前受金	90,000	90,000
		源泉所得税他職員預り金	415,520	
		茨城県障害福祉課	1,000	
		預り金計		416,520
		みらい人件費引当金	4,300,000	
		えがおの家人件費引当金	3,600,000	
		あい人件費引当金	4,520,000	
		人件費引当金計		12,420,000
		みらい賞与引当金	2,460,000	
		えがおの家賞与引当金	600,000	
		あい賞与引当金	669,571	
		賞与引当金計		3,729,571
えがおの家	500,000			
あい	620,000			
施設整備引当金計		1,120,000		
	流動負債計		24,395,091	
固定負債	長期借入金	常陽銀行阿見支店	1,424,000	
		固定負債計		1,424,000
		負債合計		25,819,091